

# 仙台第二高等学校

教育目標 至誠業に励み 雄大剛健

の風を養い ともに敬愛切磋を怠らず



## 1 基本データ

創立：明治33年  
課程・学科：全日制課程・普通科  
生徒数：956名  
所在地：〒980-8631  
仙台市青葉区川内殿橋通1  
TEL：022-221-5626  
FAX：022-221-5628

ホームページアドレス：<https://sen2-h.myswan.ed.jp/>  
学校代表メールアドレス：[sen2-h@od.myswan.ed.jp](mailto:sen2-h@od.myswan.ed.jp)  
主な交通機関  
仙台市営地下鉄 東西線 国際センター駅下車 徒歩4分  
仙台市営バス：仙台駅バスターミナルより  
730系統交通公園・川内(営)行き 739系統交通公園循環  
宮城交通バス：仙台駅前より 広瀬通経由川内亀岡行き  
いずれも 二高・宮城県美術館前下車 徒歩1分

## 2 学校の特徴

### キャッチフレーズ

### 文武一道

本校の大先輩、柔道家三船久蔵十段のことは、学業と部活は相反するものではなく、人間形成のためには両者を等しく追求することが不可欠であるとの信念に基づくことばです。

### (1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

明治33年に宮城県第二中学校として創設以来、百二十余年の歴史と伝統を有する学校です。青葉山の麓、広瀬川の清流に臨み、近隣には東北大学や県美術館、仙台市博物館、仙台国際センターなどがある文教地区に位置しており、まさに「学都仙台」を象徴する学校といえます。

校内には150本を超える桜をはじめ、樹齢数十年のヒマラヤスギが林立し、あたかも森に囲まれたような見事な景観を呈し、学校生活に潤いを与えてくれています。

今後、校舎の老朽化に伴い、大規模なリニューアルが予定されており、さらに快適な環境で学習に励むことができるようになります。

学校の主な施設の概要は以下のとおりです。

- ・校地面積：56,965㎡
- ・運動場：硬式・軟式野球場、ラグビー・サッカー場、テニスコート4面
- ・建物：管理棟(南校舎2階建)、教室棟(北校舎3階建・各教室冷暖房完備)、理科教室棟、家庭科実習棟、食堂、図書館、講堂、柔剣道場、体育館、50mプール、弓道場、北陵館(百周年記念館)

### (2) 教育方針

《育てたい生徒像》

- ① 真摯な姿勢で物事に対処できる、度量が大きく、心豊かな若者
  - ② 自らの主体的な行動により、社会に貢献し、グローバルに活躍する人材
- 《中・長期的目標》
- ① 幅広い教養と確かな学力の保証
  - ② 主体的な進路選択とその実現
  - ③ 人格の練磨と自主自律の精神の伸張
  - ④ 「本物」に触れる機会の提供、豊かな感性

- と情操の涵養
- ⑤ 開かれた学校づくりの推進

《本年度重点目標》

かけがえのない自他の命を大切に、心身ともに健康な生活を送る

- ① 授業第一主義のもと、生徒の主体的な学習態度の育成と質の高い授業づくりを追求する
- ② 新学習指導要領に基づいた指導と高度な探究活動の実践により、生徒の資質・能力の向上を図る
- ③ 高大接続改革への適切な対応により進路指導活動を充実させ、生徒一人ひとりの進路目標達成を支援する
- ④ 自主自律の精神・態度を育成し、生徒の学校内外における生活の質を高める
- ⑤ 一人一台端末の活用を推進し、ICTによる教育活動を発展させることで、多様な学びの環境の整備を整える

### (3) 教育課程の特徴

- ① 選択科目の設定  
1年次は共通履修を基本として編成し、2年次からは文科系・理科系の類型制を設定しています。1年は芸術、2年は理科と地理歴史、3年は進路に応じた科目を選択することになります。
- ② 個に対する指導  
国公立大2次試験、私大受験に対応するため第3学年に増加単位を設け、選択制を導入しています。  
平常講習、長期休業講習、個別添削指導、小論文指導などを実施し、生徒の要望に応えています。
- ③ 教育課程  
授業は1時限を45分、一日7時限で実施しています。また「総合的な探究の時間」を通して知的探究心を高めるとともに、学問的かつ人間的な視野を広げ、個々の資質の伸長を図っています。

### (4) 行事・生徒会活動・部活動

- ① 主な行事  
4月 大運動会  
5月 仙台二高・一高硬式野球定期戦  
6月 芸術鑑賞  
7月 岩手山登山(1年生)

- アメリカ研修(2年生)  
8月 未来キャリア創造プロジェクト(1年生)

- 9月 北陵祭(文化祭)  
北陵グローバルゼミ(2年生)

- 10月 秋季体育大会

### ② 生徒会活動

自主・自立の精神のもと、生徒自身の手によって主体的に運営されています。年2回の総会では激論が展開され、12ある委員会も活発に活動しています。また、北陵祭(文化祭)における実行委員諸君の献身的な活躍にも特筆すべきものがあります。

### ③ 部活動

運動部が22部、学芸部が12部、そして愛好会も多数あります。兼部も認められています。各部活動は活発に活動しており、学校HP等でその活躍を紹介しています。

### (5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R4	R3	R2
国公立大学	140	162	148
国公立短大	0	0	0
私立大学	46	39	45
私立短大	1	0	0
専各学校	0	0	0
大学校・就職	1	1	0
その他	120	111	122
卒業生計	308	313	315

主な進路先(令和5年3月卒業生)、

( )内は人数 (1)は省略

<国公立大学>

北海道大(5)、岩手大(7)、東北大(55)、秋田大(4)、山形大(24)、福島大(4)、茨城大(1)、筑波大(4)、埼玉大(2)、千葉大(3)、電気通信大(2) 東京医科歯科大、東京大(4)、東京外語大(2)、東京学芸大(5)、東京工業大(2)、一橋大(4)、新潟大(2)、富山大、金沢大、静岡大(1)、京都大(4)、大阪大(4)、広島大、九州大、宮城大(2)、秋田県立大、会津大、福島県立医大、東京都立大(4)、新潟県立大、諏訪東京理科大、兵庫県立大

<私立大学>

慶應義塾大(5)、早稲田大(8)、自治医科大、産業医科大、東北医科薬科大、他

### 3 学校魅力発信

#### (1) 本校生徒の活躍

令和4年度 文部科学大臣杯全国囲碁選手権大会 団体優勝

## 8年ぶり、2度目の全国制覇



「大会に 欠かすべからず 神経衰弱(字余り)」

囲碁部3年 三浦叡(仙台一中出身)

「全国有数の強豪校」と言えるであろう仙台二高囲碁部。昨年夏の文部科学大臣杯男子団体戦。大戦相手を定める抽選で、前回覇者や過去最多優勝校との対局を引き当てたことさえ「圧倒的なくじ運の良さ」ととらえた私たちは、日ごろの成果を発揮し8年ぶりの全国優勝を達成した。また、春の全国高等学校選抜大会では男子団体戦が4位入賞にとどまるも、個人戦では女子が二高初の快挙となる優勝。男子も3位入賞を果たした。その強さの源泉は、部員同士の仲間に対する強い信頼と一丸となった練習。そして大会中の気分転換にこそある。

二高生の精神的支柱として連綿と受け継がれている「文武一道」の理念。今年も、私たち囲碁部はその体現に向け走り続ける。

#### (2) 主な学校行事① 岩手山登山

仙台二高の伝統行事の一つで7月中旬の3日間、1年生は奥羽山脈の最高峰である岩手山に挑む。ふもとから登り始め、標高2038mの山頂まで、往復10時間の旅である。男女共学になった2007年度以降は男子とともに女子も登っている。

県内の学校ではほとんど行われていない登山であるが、本校では栗駒山登山を引き継ぐ形で2009年度から岩手山登山に切り替えた。山頂に到達した生徒たちは達成感を味わい、天空の景色に感動する。

生徒の声

1コース 1班 班長 筒井大輝(南吉成中学校出身)

私が岩手山登山のことを知ったのは今から1年ほど前、学校説明会で仙台二高を初めて訪れた日だった。あの頃はどんな行事なのか知る由もなかった。

体育ですぐに栗駒走が始まり、真の二高生になるための関門だと聞き、重要な行事だと認識するようになった。登山靴を用意してから山行訓練が始まり、班編成も確定した。私は高校で登山など滅多にない機会だと考え、班長になった。

1日目のオリエンタリングが予想だにしないハードな内容で骨が折れたが、班の結束を高めるこの上ない経験だったと思う。ポイントを全て回ったことは達成感を生んだ。

2日目の登山では、早い段階で疲労がたまり、精神的に苦しい場面が何度もあったが、班員との会話が疲労を忘れさせてくれた。頂上に着いたとき、努力が形になったことに大きな喜びを感じた。登山を達成する過程で得られた数々の成果は、今後に生かせる力になったと思う。支えてくれた友人、先生、ガイドさん、旅館の方々、そして岩手山。すべてに深く感謝したい。



#### (2) 主な学校行事② 仙台二高・一高硬式野球定期戦

「社の都の早慶戦」と言われる伝統行事。明治33(1900)年開校と同時に始まり、本家の早慶戦よりも歴史は深い。両校の野球部は全校生徒の応援を背に、誇りをかけて戦いを繰り広げる。応援によって力を得た両校の選手たちの必死のプレーは深い感動を巻き起こす。令和4年の定期戦は近年まれにみる緊迫した展開で、延長11回の死闘の末に惜しくも敗れた。

生徒の声 「誇り」

令和4年度硬式野球主将 丹野翔太(宮城教育大学附属中出身)  
(現東京大学1年在学中)

「皆さんの応援が力になりました。」そんなありふれた言葉で言い表してはいけない気がするが、とにかく伝えたい。応援は力になる。

定期戦前、私は柄にもなくプレッシャーを感じていた。野球部の主将として、二高の勝利を勝手に背負ってしまっていたのだ。全校の応援を受けて戦うことに怖さすら覚えることもあった。

しかし、それは間違いだった。私達には常に背中を押してくれるたくさんの声援が、音楽があった。どんなに劣勢であっても力強いその応援に、戦い続ける力をもらった。チャンスでの盛り上がり、得点の瞬間の一体感は時間がたった今でも頭から離れない。

延長の末、試合は敗れてしまった。二高生皆で勝利を味わうことができなかったこと、とても悔しく感じている。それでも、二高の誇りは示すことができた。最後の一瞬まで選手、応援の全員が戦い抜いたことを誇らしく思う。

応援団、吹奏楽部、調停委員、運営委員をはじめ、最高の定期戦を作り上げた全ての人に感謝したい。



### 4 在校生からのメッセージ

生徒会長 杉田知泰(宮城教育大学附属中出身)



仙台二高は県下有数の伝統校です。122年の歴史が育んだ校風や文化、伝統は二高の宝であり、他では決して得られない経験や学びを、二高でなら得られるでしょう。

さて、私からは手短かに二高最大の魅力について述べさせていただけます。二高最大の魅力、それは二高生です。仙台二高には県内各所から、高い志を持った生徒が集まり、日々切磋琢磨しています。もちろん、勉強に限った話ではありません。非常に盛んな部活動、愛好会活動はもちろんのこと、日々の生活の中で、互いの人間性や個性に感銘をうけ、刺激し合い、高めあうことのできる仲間が仙台二高にはいます。

仙台二高は間違いなく、最高の学習環境であるとわたしは考えます。